

公園使用料タダは違法！

栃木市サッカースタジアム「用地代払え」と判決

1月27日、宇都宮地方裁判所で、栃木市に設置されたサッカースタジアムの公園使用料・固定資産税の免除は「違法である」との判決が出されました。この裁判は、2021年5月に完成したスタジアムについて、市は公園使用料を免除、今後の固定資産税も免除すると決めたことに対し、住民が提訴して争った事件で、判決は原告住民の全面勝訴という内容です。

判決では、争点となったスタジアムの「公益性」について、栃木市公園条例で定めた「公益上その他特別の理由」があるとは認められないと、明快に述べています。栃木市はサッカー場を建設した民間業者と「覚書」を結び、公園使用料と固定資産税を免除すると明記していましたが、それが明確に「違法」だとの判断が下されたのです。

そのまま鈴鹿のサッカースタジアムに当てはまる

この栃木市の事例は、そのまま鈴鹿市のサッカースタジアム計画に当てはまるものです。鈴鹿市は三重県に対して、青少年の森の公園使用許可を申請するに当たり「公益性が高く、広く活用出来る施設」だとして使用料減免を求め、県は使用許可の条件の中に「三重県都市公園条例の規定に基づき免除します」と明記しました。

鈴鹿市は、サッカー場を建設するノーマーク社・アンリミテッド社と締結した協定書の第4条に「県の同許可を経て確定するその許可の内容」という文言で、県の「免除」措置を、そのまま適用しています。県-市-民間業者と仕組みが違って、サッカースタジアムの使用料を免除するという措置は、栃木市の事例とウリ二つです。

2年半前に末松市長と民間会社社長らで、県の公園用地5haをタダで使えるうまい方法を謀議して始めたサッカー場建設の話が、着工寸前で「違法だ！」となった。さあ推進の面々よ、それでも森の樹を切ると言うのか？

小中学校改修計画、予定変更か？

鈴鹿市は2020年度から12年間の「公共建築物個別施設計画」の中で、小中学校の校舎25校、体育館20校の改修・改築を進める計画です。最初の4年間の計画では、20年に石薬師小体育館、21年に大木中校舎の改築が進んでいますが、3年目の22年度（白鳥中1、白子中1、千代崎中）、4年目の23年度（白鳥中2、白子中2、長太小）の風向きが変わってきました。

千代崎中が改修→改築、白鳥中が「検討」に

白子・千代崎・白鳥の3中学の改修のための「耐力度調査」の結果、千代崎中の校舎の数値が悪く「長寿命化改修」から「改築」に変更されました。白子中の22年度からの改修は予定どおりですが、千代崎中は23年度着手に、白鳥中は4年間の計画内から「引き続き検討」に先延べとなりました。

市内の小中学校の多くが築40年以上の建物で、12年間の計画中に築50年、60年を超えるなど「待ったなし」の状態で、「前倒し」はあっても「先送り」できる余裕はありません。ボロボロの河曲小・牧田小・庄野小の体育館も、ガマンの限界を超えています。

今回の変更は必要なものですが、そのための遅れはすぐに取り戻して、今後の8年間に必ずやり切る計画にすることが求められています。

旧神戸中の跡地は民間売却・宅地に

神戸中学校が新築移転してから11年経ちましたが、移転前から議論されてきた跡地の利用については、公園とか保育園移転とかいろいろ出された案がどれも決定案とならず、最終的に宅地として民間に売却ということになりました。

12月議会に売却処分の議案が出され可決されました。約1.9haの用地が入札の結果、(株)ユタカ開発に最低制限価格の約2倍・6億6780万円で落札されました。契約から5年以内は一戸建て住宅以外の建築物はできないという条件付きですが、5年先には高層マンションも建てられるということです。住宅街の中なので保育所の移転などが環境や交通問題で立地困難だったという経過を考えれば、一户建て住宅の建設が進んで落ち着いた街になってほしいと思いますが、さてどうなるでしょうか。

国民健康保険料 5.9%引き下げ！

県下でもトップクラスに高い国民健康保険料が、7年ぶりに引き下げ改定されます。引き下げ率は平均5.9%、財政規模では約2億円です。

	所得割 1	所得割 2	人数割 1	人数割 2	世帯割 1	世帯割 2
現 行	10.7%	13.8%	40,200円	54,600円	31,200円	39,000円
改定後	10.3%	13.0%	37,200円	49,600円	28,200円	34,000円
引下げ幅	-0.4%	-0.8%	-3,000円	-5,000円	-3,000円	-5,000円

2022年度鈴鹿市国保料の料率改定案の内訳 ◎各項目の(1)は40才未満 (2)は40才以上の世帯で介護保険の負担分。国保料は所得割・人数割・世帯割を合計した金額です。

16億円の支払基金は使わず会計内のやりくりで

今回の引き下げは、団塊世代の加入者が後期高齢者(75才以上)に多く移行する新年度から医療費の減少・県への納付金の減少となることから、大きな理由です。しかし、前回の値上げから6年間で積み上がった16億円もの基金には手を付けません。基金を年1億円でも繰り入れれば、さらに引き下げが出来るのです。下に示す事例を見れば、引き下げてもなお高額な状態は続きます。共産党市議団は、基金を活用してさらに引き下げを進めることを提案しています。

【世帯モデルの引き下げ事例】 保険年金課の試算資料より

◎40代単身世帯・年所得100万円＝保険料172,100円→157,500円

◎40代の親子世帯・年所得200万円＝保険料350,300円→324,700円

◎40代夫婦と子2人世帯・年所得300万円＝保険料583,100円→541,500円

*これらモデル世帯を計算したら、生活保護基準以下かスレスレの生活でした。ちょっと安くなったとはいえ、この保険料を払うのは大変です。

就学前の子どもの「均等割」保険料は半額に

「収入もない子どもに保険料かけるな！」世界に例の無い無慈悲な保険料「均等割」(人数割)をなくせと、全国の知事会や市長会も国に要望、ついに国は「就学前」の子どもの均等割を2分の1に軽減することになりました。しかし財源は国1/2、県1/4、市1/4と地方に負担の押しつけ。鈴鹿市で対象になる児童は837人、皆ゼロにしても2千万円ほどで出来るのに。

ずいそう



「原宿」に住んでいたころ

小泉今日子のエッセイ集「黄色いマンション黒い猫」は、若い頃に東京・原宿に住んでいた頃の思い出や、当時考えたり感じていたことを綴った作品です。アイドルとかスターと呼ばれていても、しっかりと自分や世間を見て考えていたキョンキョンの実像や、若者の街・原宿の風景が描かれています。

私も学生時代の一時期、原宿に半年ほど住んでいたことを懐かしく思い出しました。と言っても、静岡市の「原宿」。大家さんが「原さん」の下宿屋で、その娘さんが東京に憧れて名付けたそうで、壁に大きくペンキで「原宿」と書いてありました。しかし間取りは全部屋が3畳一間！時あたかも南こうせつの「神田川」がヒット中で、あの歌詞の通りの暮らしでした。

「神田川」と「網走獄中記」の世界を体験して

友人たちは「原宿？あぁ、あの鶏小屋みたいな下宿か」と。外向きに壁が無く窓ばかりの建物だったので、住人が窓から顔を出すと鶏小屋みたいに見えたのでした。この部屋で、冤罪事件を闘っていた村上国治氏の「網走獄中記」を読んでいると、何と縦横サイズが刑務所の独房と同じで「あぁ国治さんもこんな部屋で、6年も闘っていたのか」と感動すら覚えたものです。

しかし狭いのは確かで、鈴鹿の実家に帰省して玄関に入ると、居間の手前の上がり端（板間）が3畳なのにビックリ、「エー、こんな空間に住んでいるのか？家では8畳の部屋にいたのに」と引っ越しを考えました。

そして引っ越した下宿が「田宮荘」といい、こちらは4畳半と出世しました。田宮荘の大家さんも「田宮さん」。静岡市小鹿（おしか）は田宮さんが多く、歩いてすぐの所に「田宮模型」という小さな会社と工場がありました。当時でもプラモデルの「田宮模型」は有名でしたが、今や世界に知られた大企業「タミヤ」に発展するとは、思いもしませんでした。ここで卒業まで1年ほど暮らしました。

小泉今日子の原宿は1980年代、私の原宿は70年代と違いますが、あのころの私は何を考えていたのだろうか？「社会の変革と自己変革」を漠然と思っ
てはいたけれど、彼女ほどしっかりはしていませんでしたね。でも、こうせつの歌のように「若かったあの頃、何も怖くなかった」という気分でした。